

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサークル小針上山		公表日		2025年 3月 10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	4	・指定基準を超える広さを確保しています。併せて個別の訓練室を設けています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	・指定基準を満たし、適切に職員配置を行っています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	4	・視覚的な支援により構造化された環境に工夫しています。事業所の入り口は二階の為、必要に応じて職員が介助を行い適切に対応しています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	4	・活動によって空間を区切るなど、こども達の過ごしやすい環境作りに配慮しています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	・個別の訓練室を設け、必要に応じた活動できるようにしています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	3	・日々の業務を見直す機会を定期的に設けて、職員全体で業務改善に取り組んでいます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	2	・定期的に保護者アンケートを実施してニーズを把握し、日頃から何うご意見と併せて、運営に生かしています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	2	・定期的に行い、日々の業務に生かしています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4	・現在のところ、第三者による外部評価は実施していませんが、今後定期的に行うことを検討しています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	・事業所内で定期的に研修を実施しており、外部研修への参加も行っています。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	3	・職員間で話し合い、最適なプログラムとなるよう計画しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	2	・児童ごとに、個別活動・集団活動の時間を設定しており、保護者の意見を聞きながらその児童に合った計画を作成しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	2	・支援計画は、児童発達支援管理者と共に、こどもと関わる職員が意見を出し合いながら計画しています。		

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	2	・職員間で共有して行っております。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	3	・アセスメントシート等の各種を用いて、児童への理解・分析を行い、日々の療育に繋げております。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	2	・保護者と情報共有する中で、様々な視点から、それぞれの児童に合った支援を設定しております。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	・児童発達支援管理責任者や、直接支援を行う職員が意見を出し合いながら最適なプログラムを計画しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	・固定化しないよう、月ごとに毎日のプログラムを組み立てています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	・児童ごとに、個別活動・集団活動の時間を設定しており、その児童に合った計画を作成しています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	・支援開始前に職員間で利用児童についての支援内容や送迎内容の確認を行い、適切な支援が出来るように取り組んでいます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	・支援終了後には、必ず利用者ごとに記録を作成し職員間で共有して、支援計画に生かしています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	・日々の支援については必ず記録を作成しております。また、送迎時の関係機関からの引継ぎ事項やご意見も含めて記録し、職員間で共有しています。
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	・定期的にモニタリングを実施しており、保護者や職員からの意見を反映して次の計画作成に活かしています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	・ガイドラインの総則に基づき、利用児童のニーズに合わせて支援を行っています。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	1	・児童の特性や状況に応じた支援を行っています。
	適切な支援の提供	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	・各関係機関と連携を行っており、体制を整えています。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	・保護者を通じて確認させて頂くことに加え、必要に応じて学校とも連携し適切な支援が行われるように情報共有しています。

関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3	・個人情報保護に配慮しながら、児童情報の共有を関係機関を行い、継続的な支援が行えるように取り組んでいます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	・他事業所からの要望があれば、保護者やご本人への了解を得たうえで情報共有を行います。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	4	・そのような機会は十分ではないため、機会を増やせるように取り組んでいきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	7	・長期休みは地域の遊び場に行き、その場にいる子ども達と関わっています。今後のそのような機会を増やしていけたらと思います。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4	・管理者や児童発達支援管理責任者が自立支援協議会へ参加しています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・連絡帳や送迎時のご報告等で児童の様子や活動内容をお伝えしています。また、事業所ブログでも記載しています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4	・保護者支援は行っていますが、十分ではないため、今後は更に力を入れ取り組んでいきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	・契約時に、重要事項等説明書などの各種を丁寧に説明できるように心掛けています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1	・放課後等デイサービス提供を作成するにあたり、利用者本人の意思確認と、保護者の意向確認を行っています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	1	・放課後等デイサービス計画を示しながら丁寧な説明を行い、同意を得るように心掛けています。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	・日々の送迎時等いつでも相談に応じています。また必要な場合、面談も行っています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	5	・家族交流の機会は少ないため、今後設けていきたいと思っています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	・苦情関する窓口、担当者を設置し、解決に向けて迅速に対応しています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1	・事業所のブログに日々の活動の様子を発信しています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	・契約時に個人情報の取り扱いについてご説明し、ご理解頂いております。事業所内部でも職員研修を行い、個人情報保護の対応をしっかりと行っています。
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	1	・利用児童やその保護者の一人一人に合わせた対応について検討し、適切に行っています。	

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	・地域の催しに参加するなど、地域住民の方とコミュニケーションを図っています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	・各種マニュアルを策定・周知し、訓練を行っております。保護者に向けて、日々のブログ等でお知らせしております。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	・業務継続計画（BCP）を策定しており、災害発生時を想定し研修と訓練を行っております。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	・職員全員で情報共有を行っております。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	・契約時に食物アレルギーに関する確認を行い、職員全員で情報共有を行っております。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	・安全計画を策定しており、計画通り安全に必要な研修や訓練を行っております。また、安全管理が十分された中で必要な支援を行っております。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	・保護者に向けて周知を行っております。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	・ヒヤリハット事例集を作成し、職員会議等で振り返りを行うことで安全なサービスの提供に役立っています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	・定期的に虐待防止研修を行い、日々の支援内容を振り返る機会を設けています。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	・やむをえず身体拘束を行う可能性がある場合には、必ず組織的に決定し保護者の方に十分なご説明を行います。ご同意を得たうえで、その内容を支援計画に記載しています。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサークル小針上山		
○保護者評価実施期間	2024年11月20日		～ 2024年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	2024年11月20日		～ 2024年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育の内容が個人に寄り添う部分が多く、それを基にした指導案等を作成の基に実施できて、少しずつではあるが利用者が出て来ようになっていることが増えたり、情緒が安定してきたり、楽しく参加することが出来ている。	支援プログラムに則り、充実した内容の療育が行われており、利用者の強みをさらに強化できている。結果利用者本人及び利用者家族からの満足度よりその点が推測できる。 また、療育するにあたって、毎回指導案を作成し振り返り等を行うことによりPDCAサイクルに基づいた運営が行われている点。	さらに個々に合った療育の計画、展開につなげる為にアセスメントを基に職員間で共有をして新しい計画を立案する。 共有方法は直接の話し合いが望ましいが、全員参加が難しい場合には議事録または新しい計画案に修正部分が明瞭になるように記載して閲覧できる形を取る。 また、研修や講演へ参加したり、新しい情報を共有したりする。
2	利用者家族に寄り添った支援を行い、特に利用者家族に対し個別対応であるが、悩み等の相談で誠実かつ正確に対応できている点。	児童発達支援管理責任者が中心となり、積極的に働きかけ連絡を密に取り合っている。 特に日々を繋ぐ連絡帳に関しては必ず目を通すと共に、職員一人では対応が難しかったり、判断を要したりする場合には必ず児童発達支援管理責任者への報告相談を徹底している点。	相談内容、進捗、解決に関して時系列にて表記し、諸君全体で共有することにより、利用者だけではなく、利用者を取り巻く人的環境の背景などをより考えて行動できるようにする。
3	相談員や、他事業所、学校などの関係機関との連携が構築できている点。	児童発達支援管理責任者が中心となり、積極的に働きかけ連絡を密に取り合っている結果に起因すると考える。	今後、児童発達支援管理責任者が築き上げた関係を引き継ぎ、連携をさらに深めると共に、定期的に相談員と直接話す機会を設ける。また、さらに連携の幅を広げていくのであれば、学校等や他事業所など利用者が関係する機関との連携の強化を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	開所して1年半と日が浅いこともあり、保護者同士の連携、もしくは交流が不十分である点。 また、交流を設ける場、機会が少ない。	今までに交流を図れるような機会、企画などがなかったことが要因であると考える。	定期的な茶話会やイベント、講演会などを開催して保護者同士が交流できる機会を設ける。 例えば土曜日や祝日などにお子さんを預かっている間(外部へ出かけている間など)に事業所内で茶話会などの機会を持つ。また、他事業所と合同でイベントを企画するなど、利用者も交えた機会を増やすことが一歩と考える。
2	地域の子どもたちとの交流の機会が少ない。	上記と同様で土曜日や祝日の際に機会、計画が少なかった。	必ずしも他事業所と連携して何か合同で機会を設けるだけではなく、グループ内と合同で機会を設ける事も普段関わらない他児との交流の機会と考える。 また、長期休みの際には地域のお祭りなどに参加し、交流の機会を増やしていく。
3	構造上の問題。 特に小集団活動と個別活動を同時進行する場合のスペースが限られており、他の活動の動きや音で利用者の集中力が継続しない機会が見られる。	そもそもの構造上の物なので致し方ない問題ではある。	限られている構造、設備の上で、パーティションを用意する、活動の時間帯をずらして活動する、集団活動する際に、より落ち着いて行動できるようなメンバーで構成するなどの工夫をする。